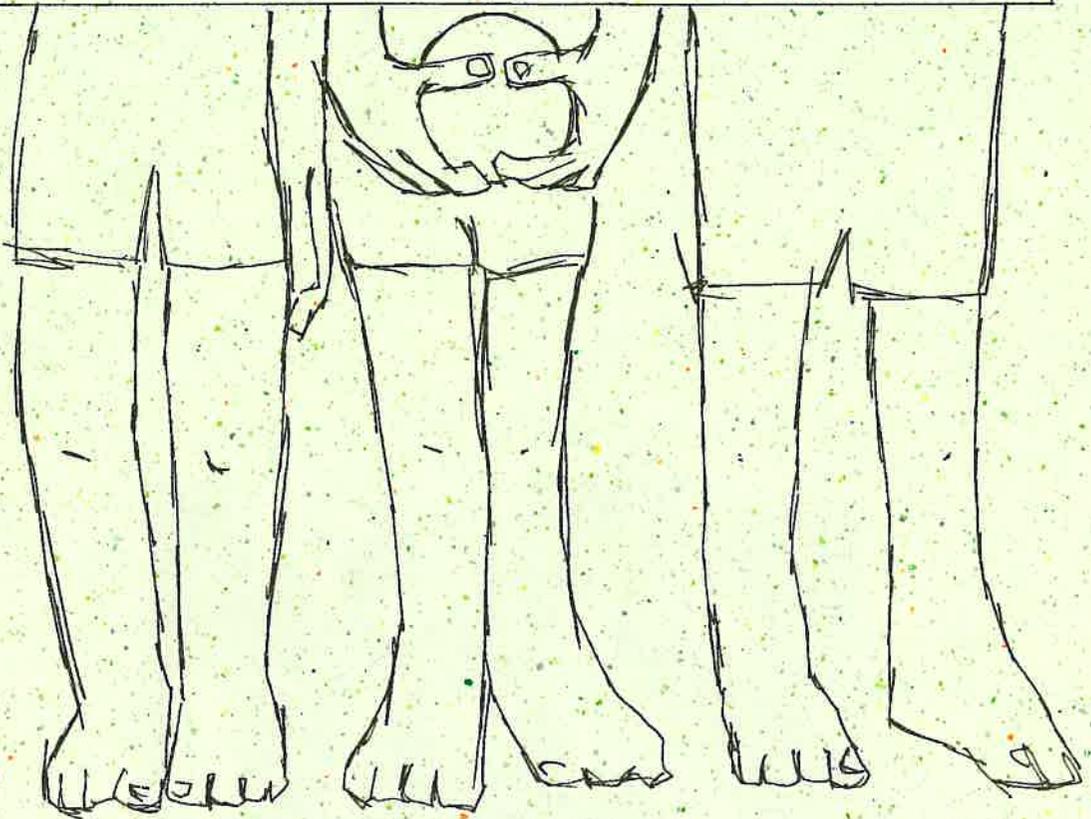


ACEF



第20回 バングラデシュ
寺子屋訪問スタディツアー



2001年2月23日～3月9日

第20回 バングラデシュ

寺子屋訪問 スタディーツアー

報告書

目次



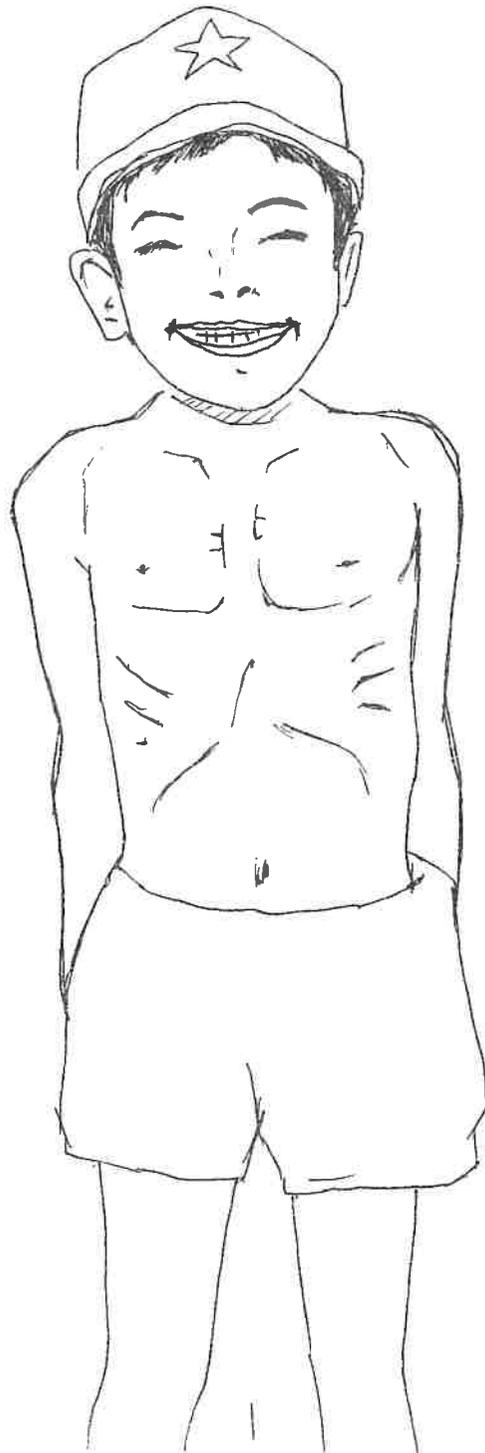
BANGLADESH って?	2
BDP って? , ACEF って?	3
STUDY TOUR SCHEDULE	4
わたしたちのバングラ滞在中	
メンバーそれぞれのバングラ滞在中記	10
TAKAKO のなんでもノート	26
スタジアメンバー思い出集	28
音楽はコミュニケーション	31
バングラデシュに寺子屋を贈ろう!	32



★20回

Bangladesh 寺子屋訪問スタディツアー

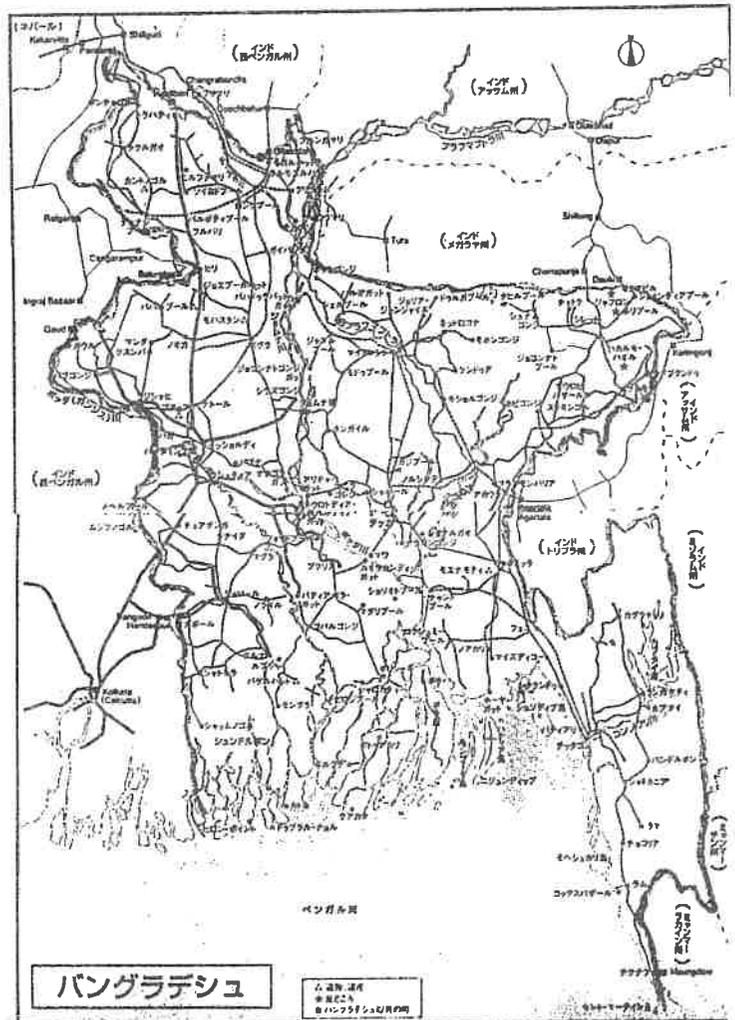
報告書



BANGLADESH って?

BANGLA(バングラ)=ベンガル人 DESH(デシュ)=国。

1971年に現パキスタンから独立した建国30年のベンガル人の国。
インド大陸の東に位置し、熱帯モンスーン気候帯に属するイスラム教国。
本格的な雨季となる6月-10月には国内を流れるガンジス・ブラマプトラ・メグナ川の3大河川の氾濫によって、広域にわたって洪水がおこる。
北海道の約2倍の国土(14.4万平方キロ)に1億3000万人の人が住み、増え続ける人口に経済が追いつかず、世界で最も貧しい国のひとつとされている。おさない子どもが家庭のために働かなければならず、学校に通うことのできない子どもも多い。



BDP. ACEF って？

BDP (Basic Development Partners)

「教育は、人間としての尊厳と生きる力を育てるための基礎である」

1990年、教育の重要性を痛感した医師、ミナ・マラカール女史が、首都ダカのスラム地区で幼稚園を始めた事がきっかけとなって設立された、ベンガル人によるキリスト教のNGO 団体です。学校に行けない子どもたちのためにBDP スクールを建て、バングラデシュに教育を普及させる事を目的としています。また、教育の普及によってバングラデシュの貧困を無くすことを願っています。

現在、バングラデシュの4地区でBDP スクールに通う子どもは9600人。最近では、初等教育や女子教育・婦人教育と共に卒業した子どもの職業訓練にも力を注いでいます。現在は、マラカール女史は高齢のため、アルバート・マラカール氏が引き継ぎ、若いスタッフと共に、高い志と熱い意欲を持って取り組んでいます。

ACEF (アジアキリスト教教育基金)

マラカール女史の呼びかけに答えて、バングラデシュで教育の機会に恵まれない子どもたちに『寺子屋を贈ろう』と1990年に日本で発足したNGO 団体。バングラデシュを始め、広くアジアに目を向け、多くのことを学びながら現在の私たちの生活を見つめなおし、アジアが抱える問題を捉えています。

現在、使用済みカード(テレフォンカード、プリペイドカードほか)やアルミ缶回収、セミナーの開催のほか、国際協力に積極的に関わる人材の養成を目的に、年2回のスタディツアーや学生による勉強会が行われています。

ACEF と BDP の関係

ACEFはBDPに財政的な援助をしていますが、その関係は与える側・もらう側という関係ではなく、対等なCO-WORKERとして活動しています。発足から11年、この2つの団体が守られ発展してきた原動力は、まさにこの信頼関係にあるのです。

STUDY TOUR SCHEDULE

ACEFスタディーツアー 私たちのバンクラ滞在

2/23 Fri. 9:00 成田空港集合
11:20 成田発 BG073便
(バンコク経由)
18:40 ダンカ着
↓車で移動
20:15 カリタスゲストハウス着
夕食・スタッフと初対面・自己紹介
→就寝

2/24 Sat. 6:00 起床
6:30 朝禱
7:00 朝食
7:30 農村 カティラへ出発
車 → フェリー → 車
14:30 カティラ着
15:00 昼食
Free Time
19:15 晩禱
20:00 夕食 → Sharing

2/25 Sun. 6:30 起床
7:15 朝禱
7:45 朝食





8:45 教会へ
 9:00 礼拝
 牧師・信徒・長老との交わり
 13:00 昼食
 16:00 Tea time
 → 宿舎近くのヒンドゥーの家庭訪問
 20:00 夕食 (この日は晩禱ナシ)

2/26 Mon.



6:30 起床
 7:00 ラジオ体操
 7:15 朝禱
 7:45 朝食
 8:10 学校訪問 (アンボイラ校)
 エンジンボートで移動
 → 帰舎後 昼食
 夕方 ヒンドゥー寺院訪問
 19:15 晩禱
 20:00 夕食 → Sharing → 就寝

2/27 Tue.



6:30 起床
 7:00 ラジオ体操
 7:15 朝禱
 8:00 朝食
 8:30 学校訪問 (ボイヤル校)
 車で移動
 学校訪問 (カティラBDP校)
 徒歩で移動



13:00 昼食
 16:00 サリーを着せてもらう、女の子。
 お化粧, メンディー → Tea time



→ "Culture show" !!

屋上で歌や踊りの楽しい交流会
カティラ校の先生や生徒たちと。

19: 晩禱

20:00 夕食 → Sharing → 就寝

2/28 Wed.

6:30 起床

7:00 体操

7:15 朝禱

8:00 朝食

8:30 学校訪問 (マヒララ校)

車で移動

→ Tea time

13:00 昼食

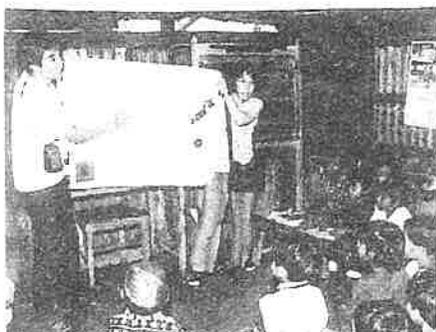
16:00 スポーツ大会

バドミントン, サッカー

18:00 Tea time

19:15 晩禱

20:00 夕食 → Sharing → 就寝



3/1 Thu.

6:30 起床

7:00 ラジオ体操

7:15 朝禱

7:45 朝食

8:30 学校訪問 (カタルバリ校)

リキシャで移動

→ Tea time @ダニエルさん宅

→ 帰舎後 昼食

→ Free time

16:00 Tea time

19:15 晩禱

20:00 夕食 → Sharing → 就寝



3/2 Fri. 6:30 起床

7:00 ラジオ体操

7:15 朝禱

7:45 朝食

8:30 学校訪問(サッチモリア校)

歩いて移動

→ 帰舎後 昼食 → Free time.

16:00 Tea time

19:15 晩禱 → Sharing

20:00 夕食 → Sharing
with BDP staff

→ 就寝

3/3 Sat. 6:30 起床

7:00 ラジオ体操

7:15 朝禱

7:30 朝食

8:30 ダッカへ発つ

カティラスタッフと最後の交流

記念撮映 → お別れ.

車で移動(フェリー)

16:00 カリタスゲストハウス着

18:00 夕食

19:00 晩禱 → Sharing → 就寝

3/4 Sun. 6:30 起床

7:00 体操 (朝禱なし)

7:15 朝食

9:30 ミュージアム見学

ニューマーケットでお買い物

14:00 昼食



ゆいたページ

子どもたちの目 ～スタディー・ツアーに参加して～

妹尾 結太

アジアの最貧国と言われるバングラデシュに行く機会を与えられて、文化の違い、生活のスタイル、町の様子や人の様子など、様々な興味を持って出発した。実際、それらの現実はしっかりとこの目で見る事ができたし、この肌で感じて帰って来ることができた。しかし何よりも最も印象深かったのは、BDPスクールに通う子どもたちの目である。

スタディー・ツアーのメインはやはり学校訪問であると思う。我々が今回のツアーで訪ねた学校は、カティラで6校、ダッカのスラム地区で1校である。学校によってそれぞれ特色があり、雰囲気も違うのは当然であるが、いろいろな子どもたちと出会い、彼らと過ごした時間を素直に喜べただけで、自分にとってスタディー・ツアーは成功だったと言えるのではないだろうか。

我々も学校訪問のはじめの頃はとまどいがあるし、子どもたちも日頃見慣れない外国人が自分たちの教室に入ってきて、突然自分のそばに座ったら緊張するだろう。過去のスタディー・ツアーでそんなに訪問していない学校の子どもであれば、なおさらだろう。しかし、授業が行われているにもかかわらず、我々の顔をチラチラと見ている子どもたちと目を合わせてみたり、じっと見つめてみたり、ときには変な顔を試してみたり。そうしていると、子どもたちとの間にあった緊張の壁のようなものがみるみるうちに融けていく感覚がたまらない。

BDPスクールに通う子どもたちの目は輝いている。学校に来て勉強できる喜びを感じているのだろう。子どもだけではなく、先生も同様である。教える喜びを持って授業を行っているのが、我々にも充分伝わってくる。日本と単純に比べることができないだろうから、「果たして自分はこんなに勉強できる喜びを感じて学校に行っているだろうか」と考えるのはおかしなことかもしれないが、何もなかったところから学校を作り上げて、そ



in カティラ
 危ない橋 渡り名人
 『エキスパート』洋舌
 何げに『写る
 シャゴールさんが
 美しい』



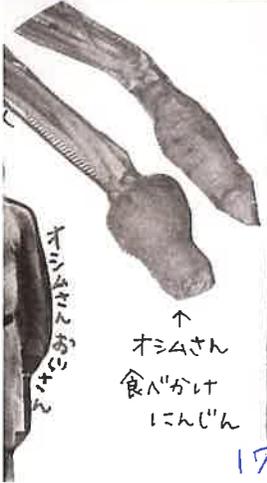
↑
 オシムさん
 にんじん 1号

カティラ 最終日 →
 ニトヒトモら、
 トシユキさん(29)
 『人』の勇気が
 ありませんでした。



in タツカ
 ←カルチャーショウのイタで『1本又。』
 ワシ

フーバイレ
 最終日。
 たのしいバングラ生活をささえてくれた
 スタッフと ↓



↑
 オシムさん
 食人かげ
 にんじん



他者からの眼差し

岡 礼子

南部の農村、カヤ行に一週間滞在していた時、私はゲスト・ハウスの外にある井戸でよく洗濯した。洗濯していると子どもたちが集まってきて、ポンプを押してくれたり、洗濯物をしぼるのを手伝ってくれた。ベンガル語で話してくるのだが、わからないので、子どもたちの言うことをそのまま繰り返して問い直すと、ケラケラ楽しそうに笑った。(私の発音が悪かったのかしらん?) しばらく私の洗濯する様子を見ていた子どもたちは、たたき洗いを勧めてくれた。けれど、私は要領を得ず、ズボンを下に置いて、足で踏み洗いを始めた。途中、すべりそうになった私を見て、子どもたちは爆笑していた。私は真剣だったのだけれども、しょうがないので、一緒に笑った。あんなに楽しい洗濯の時間は、最初で最後の経験かもしれない。

「井戸の水で洗濯してどうだった?」日本に戻って、何人かの教会の青年会メンバーと、バングラデシュの話をしていた時に聞かれたセリフだった。下北沢にあるベトナム・カフェで冷たいハス茶を飲みながら、私は何も答えなかった。そのセリフの意味がよくわからなかったからだ。その人が、「井戸の水は汚くなかった?」と聞いたかったのか、「井戸の水で洗うのは、大変だった?」と聞いたかったのか、それとも全然違うことを聞いたかったのかはわからない。けれど、私はここに書いておきたいことがある。現地人は、井戸の水で洗濯することはないのだ。たとえ私が、善意で、洗濯しに来た女の子にポンプで水をくんであげようとしても、彼女は首を横に振るだけだった。みんな、現地人は、池の水で洗濯するからだ。私も、一回、池の水でシャツを洗ったことがあった。派手に汚してしまったため、水が大量に必要だったからだ。石段を降りてシャツを池の水に浸した時、寒期でよどんでいる水を見て、正直、「汚い!」と思った。だが、そのままシャツを洗い始めた。私の心の中に、「どうせ、2700円のシャツだし」という思いがあった。洗い始めてすぐ、私たちの料理を作っているリタさんが、ガラスのカップを大量に抱えてやって来た。そして、ちまちました洗い方をしている私を見かねて、たたき洗いを実施してくれた。私は、みるみる汚れが落ちていくシャツを見ながら、リタさんの傍らで、静かに座っていた。すると、リタさんが、池からシャツを目の前

こに子どもたちや先生が集まって授業が行われているこの光景は、こんなにすばらしいものなのかと思う。子どもや先生の美しい目を見ることができて素直に嬉しい。私が撮って帰った写真の中で、学校の子どもたちの写真が多いのも、この気持ちをあらわす事実ではないだろうか。

— おまけ —

ところで、プーバイルのどこかのご家庭を訪問する時に、ソynchョイさんに「ダッカと農村とどちらが好きか？」と尋ねられ、「ダッカ」と答えたら、不思議な顔をされた。おそらく、何故あれだけ空気の汚い、しかも騒々しいところが好きなのだろうと思ったに違いない。しかしダッカの何が好きかと言えば、そりゃ空気が汚いのは確かだが、町や人々に活気があることである。とても魅力的なことだと思う。

最後に、カリタスでミナ・マラカール先生と昼食をいただいた時に、先生のお話の中で、非常に強く印象に残った言葉があった。それは、「地球上には、世界中の人々がそれなりの生活をしていけるだけの資源はある。しかし、人間が貪欲になり過ぎた時に、それを満たすだけの資源はない」という言葉である。この言葉を心に留めて、今後自分に何ができるのかをしっかりと考えたいと思う。

またお会いしましょう。

2001.3.12

アンボイラ小学校にて
初めての訪問で"いろいろ戸惑いました" ☺



カティラ宿舎のあぐ"近くで" →



← カティラでの食事。



ヨウコ タカコ トシユキ シス"カ



アヤコ カス"コ ヒロミ ヌイワ

↓ タ"ッカ飯。バナナとパイと卵



サリーを着せていただきました♡





in カティラ
危ない橋渡り名人
『エキスパート洋子』
何げに写る
シャゴールさんが
美しい



↑
オシムさん
にんじん1号



カティラ 最終日 →

にんじんもらって
トシユキさん(29)

食べる勇気が
ありませんでした...



in ダウカ

ワン

← カルチャーショウの役で1本だけ。

フーバイル

最終日。
たのしいバングラ生活をさせてくれた
スタッフと ↓



この人を見て
食べた人



1作した人

オシムさん
おいらさん

↑
オシムさん
食べたけ
にんじん



ゆいたページ

子どもたちの目 ～スタディー・ツアーに参加して～

妹尾 結太

アジアの最貧国と言われるバングラデシュに行く機会を与えられて、文化の違い、生活のスタイル、町の様子や人の様子など、様々な興味を持って出発した。実際、それらの現実はしっかりとこの目で見ることができたし、この肌で感じて帰って来ることができた。しかし何よりも最も印象深かったのは、BDP スクールに通う子どもたちの目である。

スタディー・ツアーのメインはやはり学校訪問であると思う。我々が今回のツアーで訪ねた学校は、カティラで6校、ダッカのスラム地区で1校である。学校によってそれぞれ特色があり、雰囲気も違うのは当然であるが、いろいろな子どもたちと出会い、彼らと過ごした時間を素直に喜べただけで、自分にとってスタディー・ツアーは成功だったと言えるのではないだろうか。

我々も学校訪問のはじめの頃はとまどいがあるし、子どもたちも日頃見慣れない外国人が自分たちの教室に入ってきて、突然自分のそばに座ったら緊張するだろう。過去のスタディー・ツアーでそんなに訪問していない学校の子どもであれば、なおさらだろう。しかし、授業が行われているにもかかわらず、我々の顔をチラチラと見ている子どもたちと目を合わせてみたり、じっと見つめてみたり、ときには変な顔をしてみたり。そうしていると、子どもたちとの間にあった緊張の壁のようなものがみるみるうちに融けていく感覚がたまらない。

BDP スクールに通う子どもたちの目は輝いている。学校に来て勉強できる喜びを感じているのだろう。子どもだけではなく、先生も同様である。教える喜びを持って授業を行っているのが、我々にも充分伝わってくる。日本と単純に比べることができないだろうから、「果たして自分はこんなに勉強できる喜びを感じて学校に行っているだろうか」と考えるのはおかしなことかもしれないが、何もなかったところから学校を作り上げて、そ

ここに子どもたちや先生が集まって授業が行われているこの光景は、こんなにすばらしいものなのかと思う。子どもや先生の美しい目を見ることができて素直に嬉しい。私が撮って帰った写真の中で、学校の子どもたちの写真が多いのも、この気持ちをあらわす事実ではないだろうか。

— おまけ —

ところで、プーバイルのどこかのご家庭を訪問する時に、ソチョイさんに「ダッカと農村とどちらが好きか？」と尋ねられ、「ダッカ」と答えたら、不思議な顔をされた。おそらく、何故あれだけ空気の汚い、しかも騒々しいところが好きなのだろうと思ったに違いない。しかしダッカの何が好きかと言えば、そりゃ空気が汚いのは確かだが、町や人々に活気があることである。とても魅力的なことだと思う。

最後に、カリタスでミナ・マラカール先生と昼食をいただいた時に、先生のお話の中で、非常に強く印象に残った言葉があった。それは、「地球上には、世界中の人々がそれなりの生活をしていけるだけの資源はある。しかし、人間が食欲になり過ぎた時に、それを満たすだけの資源はない」という言葉である。この言葉を心に留めて、今後自分に何ができるのかをしっかりと考えたいと思う。

またお会いしましょう。

2001.3.12

アンボイラ小学校にて
初めての訪問で"いろいろ戸惑いました"



カティラ宿舎のおく"近くで" →



← カティラで"の食事。"
↓



ヨウコ タカコ トシユキ シス'カ



アヤコ カズ'コ ヒロミ ヌイタ

↓ タ'カ飯。バナナとハ'ンと卵



サリーを着せていただきました♡





in カティラ
危ない橋渡り名人
『エキスパート洋子』
何げに写る
シャゴールさんが
美しい



↑
オシムさん
にんじん1号



カティラ最終日 →

にんじんもろた
トシユキさん(29)

食べる勇気が
ありませんでした...



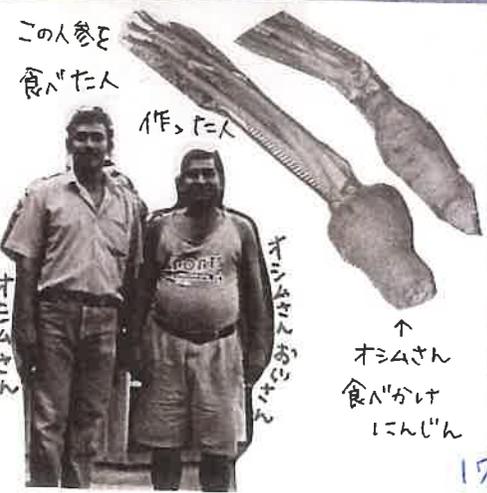
in ダッカ

ワコ

←カルチャーショウの役で1本だけ。

フーバイル

最終日。
たのしいバングラ生活をさせてくれた
スタッフと ↓



この人参を
食べた人

作った人

オシムさん

オシムさん
おじさん

↑
オシムさん
食べたけ
にんじん





in カティラ
 危ない橋 渡り名人
 『エキスパート洋子』
 何げに写る
 シャゴールさんが
 美しい

↑
 オシムさん
 にんじん1号



カティラ 最終日 →

ヒトミちゃん、
 トシユキさん(29)

食べる勇気が
 ありませんでした...



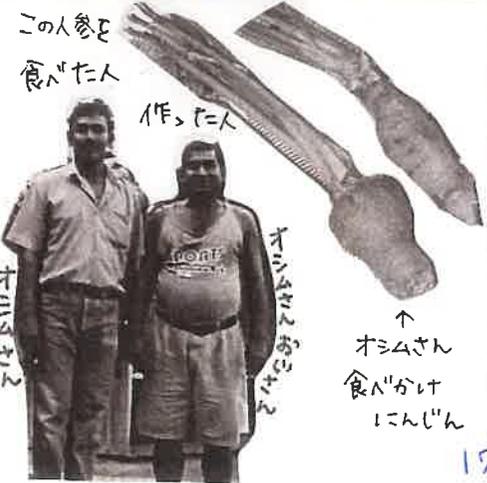
in グワカ

ワン

←カルチャーショウの後で1本だけ。

フーバイル

最終日。
 だのしいバングラ生活をささえてくれた
 スタッフと ↓



この人等を
 食べた人

イフ、フ人

オシムさん
 ぶんぶん

↑
 オシムさん
 食べたけ
 にんじん



10年振りにダッカ空港に降り立った時、バングラデシュの風を感じた。ダッカ市街の変貌にびっくりし、交通渋滞、空気汚染、大きなビル、イルミネーション、etc。10年の時の流れを感じずにはいられなかった。BDPのスタッフの方々に会い暖かい歓迎を受け、心から感謝した。カティアでの1週間そしてダッカ、ブーバイルでの学校訪問、スタッフとの交流の中で私の心の中にいつも「なぜ、なぜ、なぜ」と問いかけているものがあった。それは、スタッフの方々の毎日、毎日、心をくだいてメンバーの為にしてくる行動一つ一つに暖かい愛を感じずにはいられなかった。この愛はどこからでてるものなのか計り知れない。本当に感謝です。今、日本では失われているのではないかと思う、他人がこの様な愛をかけてくれるだろうか…？又、学校訪問では、先生と子供達の関係も、ききとじていて、私達の入る余地はない、とても感動した。少しの時間、子供達としたお話し、折り紙、歌、楽しい一時でした。10年の歳月は確実にACEF、BDP共に大きく成長し、その様子を自分の目で見る事が出来、本当に良かったと思う。これから私の出来ることは何か、今まで通りACEF会員の1人としてBDPの為に少しでも役に立てればと思いを新たにしている。今回の旅で多くの出会い、学びは私の宝物になりました。ACEFメンバー、BDPスタッフの皆様、本当にありがとうございました。心から感謝しております。



バングラデシュでの2週間の生活を心から感謝いたします。子どもが遠足をワクワクして待つ様に私もただただ子どもに会いたい、バングラデシュの自然にふれたい知りたいという思いを持ってメンバー10人と共に成田を発った。

ノモシカル (nomoskal/こんにちは) アッサラーム アライクム (assalam alaikum/こんにちは) アマル ナム たかこ (amar nam takako/私の名前は孝子です) そして、ドンノバット (dhonno bad/ありがとう)、エタ キー (eta ki/これは何ですか?) のベンガル語を持って。

ボイシャル県のカティラで「ノモシカル」と勇気を出して子どもに話しかけたら笑顔と共に返事が返ってきた。やったー、うれしい、よかった ほっ。日本語、英語の単語、ベンガル語の単語の混ぜ混ぜ語と顔語(?)で少しずつ話が先に進んでいく。緊張感がない自分が不思議だ。シャゴールさんの赤ちゃん6ヶ月のシャローム君をだっこした。初めて会う人なのにニコニコと笑い抱かれていてくれる、ありがとう。(私の子どもたちにもこんなときがあったと思います)

スタッフの心使いには本当に感謝。祈りを持って私たちを待っていてくれたを知り涙が出そうになった。ありがとう。一度だけの交わりであっても自分たちの時間を全て差し出し私たちのために共に過ごして下さる姿に、自己中心的に生活している私は自分の至らなさに気づく。

今ここ(自宅)でこの報告書を書いていること自体がバングラデシュの友のやさしさと祈りの中にあることと思っている。隣人のために心から祈る事を教えられた。ありがとう!

学校訪問は楽しかった。自分で考えて用意したものはあまり使えなかったが、日本の事を伝えたいと思った。そして自己満足かとも思うが人に与えられている言葉・歌は素晴らしいところから感じた。大きな声であいさつ、ペアを組むメンバーと自己紹介、先生も一緒に名前を呼んでくれる大きな声で歌を歌うとき自然と子どもの目とあうのが嬉しい。大きな目で見つめられると一寸ドキドキ。教室に入ると席を空けてくれる、子どもの席がいつものままでも狭いようなのに私たちのために。ありがとう。大きな声で本を読んだり暗唱したり元気に勉強している姿から出ているエネルギーを感じる。先生も一生懸命の指導。ノートも教科書もまだまだ足りないけれど学びたいという子どもの思いを知るときを得た。私自身若いときから学びたかった勉強が今出来る事がとても嬉しい。お互い一緒だね。学校を続けたくても色々の事情から卒業できない子が多いけれど5年間続けられる子どもがたくさんになりますように



ブーパイルで10年間BDPの先生をしておられる3人の女性にお会いできた。10年間も仕事と家のことを両立させてこられたエネルギーは素晴らしいと思う。バングラデシュで女性が外で仕事をするにはいろいろな問題があると聞く。その中で子どもの教育・BDPの思いに添って続けてこられた事に胸を打たれる。別れ際には母としての顔になり自分の子どもの話を。10年の重みを感じると共に私のこれからのバングラデシュへのかかわり方の方向性を示されたように思う。

今までにBDPのスタッフには何度か日本で会っていたけれど英語の話せない私は離れて見ていた。ACEFからのお知らせも頭ではわかっていたつもり、でもスタディツアーでバングラデシュにおいてスタッフに会ったらすーっと近づくことができた。そして頭で判っていたBDPのことを身体全部が受け入れた。離れた国に住んでいるけれど本当に隣の人とを感じる。ACEFの会員として連なっている年月は長いけれどドナーとしての思いが強かった。これからはCO-WORKERとして自分の周りの人と今回感じたことを分かち合いたい。日本とバングラデシュ活動をするフィールドは違うけれどパートナーとして自分の出来る事をしていこうと思う。

(メンバーのみなさん、色々とお世話になりました。自分勝手な行動の多かった私をやさしく最後まで仲間としてくれたことに感謝で――す)

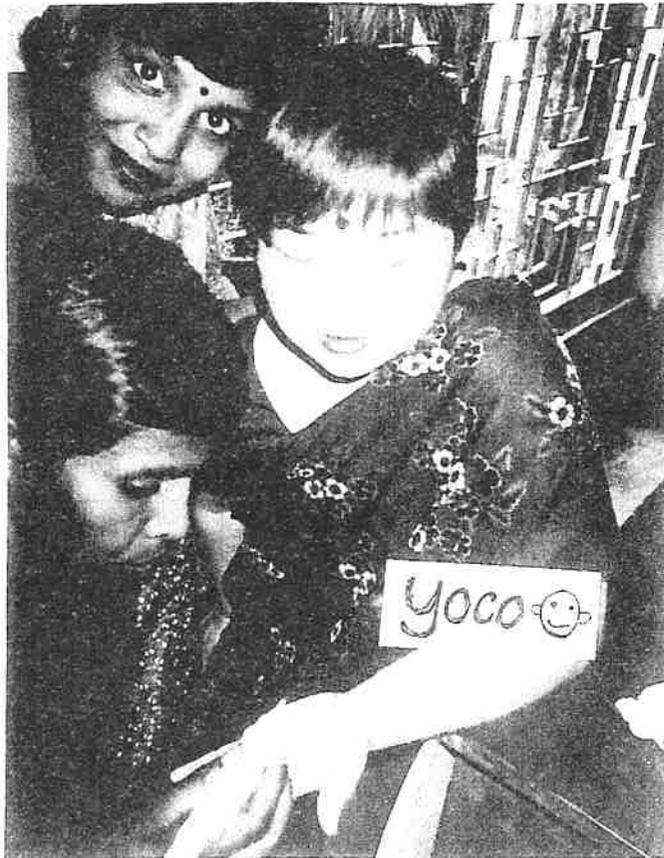
ドンノバット

TAKAKO TAKAISHI.

私の二度目の Bangladesh スタディー・ツアーは、前回と全く異なる収穫をたくさん持ち帰る旅となった。そして今後も ACEF 及び BDP、Bangladesh と関わりを持ち続けていきたいと思うようになった。

前回の旅では「自分自身との対話」「自分の進路」「開発協力の実状視察」、これらのことを考えるのにゆっくりと時間を使った。私は前回、帰国後に多くの変化を自分自身に感じた。挫折して卑屈になっていた自分を解放し、いかに今後の生活を自分の納得のいくものにしていくかを考え、ポジティブに生きていけるようになった。

今回はもっと軽い気持ちでの参加。というのも、私は再び Bangladesh で BDP のスタッフに会いたかった。そして前のように楽しい時間を持ち、また純粋な気持ちを取り戻して新学期を迎えようと思った。そして、もう一つ。私は幼児洗礼を受けたキリスト教徒である。しかし最近、苦悶していた。日常生活において宗教は果たして本当に必要なのか、信仰は果たしてどの程度重要なのか、<私>が認識するこの世界こそが全てであって死後などは「無」でしかないのではないのか。そんなことを考えては、私はどんどん教会から遠ざかった。





旅を終えて。

私は今回もたくさんの素晴らしい仲間達に出会うことができた。チームメンバーには様々な世代の様々な境遇の人々が集い、生活を共にすることで、多少の軋轢を生みながらもそれを克服しようと全員が協力しあい、たくさんのことを学び合った。そして、BDP スタッフと過ごした愛すべき時間が忘れられない。日本からきた私を“フレンドシップ”で歓迎し、時には妹のように時には娘のように私を可愛がってくれたスタッフ、感謝の気持ちでいっぱいだ。また、日夜聖書にふれ、同世代のキリスト者と話をすることによって、私は帰国後に教会へ足を運んでみようと思った。船戸先生との対話を持ってないままに旅が終わってしまったことが残念ではあるが、整理がつき始めたら、今度先生の所を訪ねてみようと思う。

いつでも私の意思を尊重し、私のチャレンジを無限に支援してくれる両親に心から感謝したい。そして、彼らが授けてくれたキリスト者としての道を、もう一度、模索していこうと思う。

もしも願いが叶うならば、いつか、もう一度、このスタディーツアーに参加したい、今はそう思っている。

God bless all of you!



「あなたの目もきれいだわ。」

井上儀子

ACEFのスタディーツアーに参加するのも17回目。何度バングラデシュを訪れても、新鮮な気持ちにさせられるのは、一緒に行くメンバーの顔ぶれが変わるからか、バングラデシュの子どもたちの屈託のない笑顔に励まされるのか、未だに出発前はワクワク、ドキドキと、心が弾みます。

今回は、最初の3日間を青梅青年会議所のメンバー7人と共に過ごしました。青梅市の青年会議所では、1年間かけてバングラデシュのことをアピールし、小学校の校舎を1校贈ろうと募金をし、その完成した校舎を見に行くのが目的でした。みな仕事を持っているので長い休みは取れず、大変な強行軍でしたが、バングラデシュをよく理解しようという熱心さは、ものを見る態度に表れていました。決して批判の目ではなく、何でも驚きをもって感動する姿に、同行する私は嬉しくてたまりませんでした。私にとってバングラデシュはふるさとのような気がして、バングラデシュのことをよく言われると私がほめられているような気がし、けなされると私が悪く言われているような気がするのです。

そんな一行と共に、ダッカのスラム地区にあるBDPの学校を訪れたときのことです。教室の中で、「バングラデシュに来てどう思われましたか？」という子どもの質問に、メンバーの一人は、「子どもたちの輝く目がとてもきれいだ。」と答えました。するとその女の子はすぐに、「あなたの目もきれいだわ。」とほほえんだのです。帰りの車の中で、彼は思わず涙がこぼれそうになったと話してくれました。未だ独身の彼は、今までそんなことを言われたことがなかったし、あんなにきれいな女の子にほほえまれてどぎまぎしたようです。

私たちはスラムの子どもたちというと、困難な生活に楽しみもないような難しい顔をしているのではと想像しがちです。しかしそこで生きる子どもたちは、たくましく明るく、素直な子どもたちです。バングラデシュの子どもたちの目が輝いているということは、多くの人に言われることです。でも本当は、私たちもその子どもたちの姿に感動を覚えるとき、実際に目が輝いているのだと思います。毎回ACEFのスタディーツアーに参加するたくさんのメンバーと接していて、最初は緊張と戸惑いの顔の日本人メンバーも、日に日に笑顔が増えていく様子を幾度となく見てきました。バングラデシュの子どもたちからもらった、あの目の輝きを忘れないよう、私たちも日本で、たくましく明るく生きていきたいと思います。

不幸な出来事

船戸 良隆

今回のスタディー・ツアーにおいては、大変痛ましい出来事がありました。

この件については、誤解を避けるために報告しない方がいいのではないかと考えたのですが、もうだいぶ時間も経過していますので、やはり、私たちの歴史のひとつとして書いておきます。

それは、カティラからの帰途でした。ポリシャルからダッカに向かう道路は、昔はデコボコ道で、車もさほどスピードを出すことができませんでした。今はよく舗装され、バスなど猛スピードで走り抜けます。そのため、事故が絶えません。

オシムさんが運転する私たちの車も、他の車とのバランスから、かなりのスピードで走っていました。すると、車の直前に小さな子どもが、突然、飛び出して来たのです。急ブレーキをかけるひまもありませんでした。こどもは撥ねられてしまいました。オシムさんは停車しかけ、同乗のアンブロスさんとふた言、三言、言葉を交わしたのち、そのまま車を走らせました。

ポッドガ河を渡るために車ごとフェリーに乗り込んだ時、オシムさんは、見るのも気の毒なくらい憔悴しきっていました。子連れの女性物乞いの子どもに、一番高価なぶどうを買ってあげていました。

ダッカに帰ってきてから、アルバートさんより丁寧な説明がなされました。

「もし、あの場で停車していたら、大変なことになっていたでしょう。やむなく車を走らせました。お許してください。」と。

私の脳裏に、かつて聞いた話が浮かんできました。ある外国人の乗った車が、地方で子どもをはねてしまった。運転手は、車から逃げてしまい、車に乗っていたご婦人とご婦人の子どもが群衆に取り囲まれ、ついには、その子どもが引き出され、殺されてしまったという話です。もし、私たちの車が、あの時に停まったなら、どんなことが起こったか、アンブロスさんは、咄嗟に判断して、車を走らせたのでした。オシムさんはBDPでも超ベテランの、最も信頼されている運転手さんです。そして、本当に心の優しい方です。どんなにか悲しい、そしてつらい思いをしていたか、また、あの繊細なやさしい心の持ち主アンブロスさんの心の内も察するにあまりあります。アルバートさんの説明も苦渋に満ちたものでした。

東南アジア、南アジアには、私たちの常識では考えられないことが起こります。私たちの常識で判断したり、私たちの価値観によって意味付けることの難しさを覚えます。

たしかに、すべてのことの説明を受けた後も、割り切れない、そして、何よりも悲しい思いは消え去りませんが、ひとつの現実として記憶せざるを得ないと思います。

はねられた子どもが軽傷ですんだことを祈りつつ、万が一の場合には、今となっては何をすることも出来ず、誠に申し訳なく思いますが、ご遺族の上に主の慰めを祈ります。

- * 1. 教会ってふしぎだね。
バングラデシュ滞在中に2度教会の礼拝に出席。ベンガル語の聖書も讃美歌もわからないが、たびたび繰り返される言葉にひきつけられる。シャンティ、シャンティ。とってもいい響き。讃美歌を聞いているとなぜか声が出てきてベンガル語らしき言葉で歌っている自分がある。ふしぎな感じ。身体が自然と反応している。遠い国の兄弟姉妹。ありがとう！
- * 2. ランチタイムはミナ・マラカールさんと
もう会えないと思っていたマラカール先生に約10年ぶりにお会いできた。80歳を越えられているようだけれどお元気そうでとてもうれしい。アルバートさんに活動の責任を譲られ、後ろからBDPのことを見守っておられる姿に度量の大きさを思う。若い人のこれからの生き方をサポートして下さるお話は気持ちだけ若い私にも心打つものとなる。BDPの人たちは子どものために尽くされているすてきな人たちと感ずる。
- * 3. カリタスの庭で。
フーハイルに向かう朝、カリタスの庭に落ち葉を集めにきた母子に会った。3人姉弟。ムスリムの人だったので「アッサラーム アライクム」と言うときにこっと笑って「アライクム アッサラーム」と答えてくれた私がつけていた名札を見つけて「たかこ」とお姉ちゃんが読んでくれたので「トマル ナム キー」とたずねることが出来た。(3人の名前を忘れてしまっただごめん)そのあと子どもは一生懸命何かを話してくれるがわからない。「私、バングラ フジナ。ごめんね」と言う事になってしまった。何か遊べることはないかと周りを見たら、大きな葉っぱがたくさんあったのでその一枚に別の葉の枝をさしてうちわを作って扇いであげたら「ハンカ、ハンカ」と喜んでくれた。少しの間ハンカ作り。この子達はBDPの学校にもいけないのかな、それともこれから学校に行くのかなと考えていたら出発の時間に。いっぱい握手してさよなら。元気でね！！
- * 4. 子どもが先生、おばあちゃんが先生。
洗濯をしているとよく子どもがやってくる。「バングラ フジナ」と言うとベンガル語を教えてくれる。顔、額、目、口、耳、足、手ほかいろいろ。言い間違えると顔を覗き込むようにしてもう一度言ってくれる。私の青空教室だ。ありがとう。池で洗濯をしているとおばあちゃんがこのようにして洗うんだよと私のズボンにシャバンをつけて池の階段に打ち付けての叩き洗い。日本ではごしごし擦り洗いをすると身ぶりで説明しているうちにきれいに洗いあがっている。ありがとう。
- * 5. 自然は私の宝物
建物から一歩外に出ると見るもの全てが気になる。風、空、星はもちろん、花、木、草、たんぽ、土そばにいてくれるスタッフに「エタ キー」の連発。カティラに来る時きれいな並木をつくっていた木の名前を知りたかったので宿舎の周りをさがしたらありましたよ。さっそくスタッフに「エタ キー」。教えてもらったけれどうまく聞き取れない。ちょっとはずかしかったけれど小さな私のノートに書いてもらった。RAINTRY TREE(レントリーツリー)気になる木がわかってよかった。たくさん植えられているのには何か理由があるのだろうか、用途はとか頭を過ぎるがこれはあとで考えよう。学校訪問の帰り川のそばの道で巻貝が捨ててある(?)のを発見。まだ生きている。どうしようかと立ち止まっていたらスタッフのダニエルさんが私の持っていた紙で包んでくれた。「えっ、持って帰るの(?)」って顔をしたら「そうだよ」と言う。持って帰って池に放した。アヒルの大好物だって。カティラの屋上で見た星はとて大きくてたくさん見える。めがねを壊してしまった私にもきれいな星が今にも降ってきそうに見える。神様のなさることはすごいと思改めて思う。

*6. 農産物の展示会

3月2日の自由時間に農産物を近隣の地域から持ち寄って見合う展示会に行ってみたくて船戸先生に無理なお願いをした。毎日おいしい料理をいただいているが他にどんな農産物があるのか興味が出てきて申し訳ないと思いつつもバーナードさんのバイクでゴンノディまで出かけた。毎年1週間開かれていた。日本でもおおきなかぼちゃをこの頃みかけるようになってきたけれど、会場の野菜類は色々の種類が全ておおきい。かぼちゃ、イモ類、トマト、ナス、きゅうり、だいこん、稲、あわ、ひえそのほか。また果物ではレモン、ココナッツ、ぶどうETC。農家の栽培のようすをミニチュアで表わしてありすこし係りの人に質問も。新しい試みも見ることができた。

ニワトリと魚(プティマース)を⇒⇒⇒

このように飼ってトリのフンを魚のえさにして育てようって。

会場の別のコーナーでは3月26日の独立記念日がまもなく来ることもあってか当時の写真や新聞があり、多くの人の犠牲のうえに今があることを改めて思う。私たちの日本の生活も多くの人の涙のうえに成り立っていると心から思う時間を与えられた。シャンティ・平和が続きますように。



バングラデシュの自然の中にある生活と文化そして時の流れ。そこから育まれていく心。子どもの目の輝きの源もそこにあるのかも。5年前スタディーツアーに参加した娘が帰宅して初めに言った事は時の流れのことだった。私も時の流れの中にあるゆたかさ、あたたかさ、人の心のやさしさを知ることができ、子どもとバングラデシュを通して共有の思いを与えられた事本当に感謝しています。

カティラの台所で。

魚のカレー コイという魚を一口大の大きさに切って、塩と黄色の香辛料(マルキューリー)をまぶし、少し時間を置く。鍋にソイ(大豆)オイルをいれ、熱くなったら魚をいれ、焼き色が付くくらいに焼きいったん鍋から出す。たまねぎ、にんにくしょうがのすりつぶしたものを鍋でいため、香辛料を加えソースを作る。その中にお湯を加え魚を戻して塩で味を調べてゆっくりと気をつけてかき混ぜる。お湯はひたひた位。

チキンのカレー たまねぎ、しょうが、にんにくのすりつぶしたものを適量油の熱くなった鍋に入れかき混ぜ、唐辛子の切ったのを入れてしっかり香りがでてきたら塩、ターメリックペイリーブもいれてお湯を今度はたっぷり入れてスープのように。その中へぶつかりのチキンをどっと入れ煮る。時々かき混ぜていく。隠し味に少しの砂糖。先に作っておいたフライドポテトを入れて出来上がり。

きゅうりのサラダ 固定した鎌のような庖丁できゅうりの端を切り切り落としの部分できゅうりの本体の切り口を擦り合わせていく。きゅうりの持つ苦味の成分を取る。これは日本でも同じ。トマトも庖丁の刃に押し当てて薄く切る。

ご飯 さっと洗ってからたっぷりのお湯の中で茹でるように入れてかき混ぜ、やわらかくなったらざるに空けて湯きりををする。(これは収穫した米の保存方法が日本と違うからでは)

夕食の準備中に日が落ちて台所は暗くなった。明かりがなくてどうするのかしらとおもっていたらビトルというバーナーのようなオイルランプに火をつけた。小さいけれど明るいし持ち運びができるから便利。シルとパタは石でできたスパイスなどをすりつぶす台所用品。シルは思ったより重たい細長い石。パタという石板の上でスパイスをシルで押しつぶす。いる分だけをいつも用意するのは大変でしょう2週間カレー料理にしたづつみを打ちっぱなし。美味しい おいしい!! モジャ、モジャカティラ、ダッカ(カリタス)、プーパイルとみんな少しづつ味が違う。ダルスープが好きな私は少し薄味のカティラ味がおいしい。メンバーのみなさんはいかが?

メンバーの思い出

内輪ウケ
でもいいじゃない!!

ピーターさん

カティラオフィスのある
病院で働く看護士さん。
なぜかスタッフより印象が強い。
年齢の割に子供のようにお調子者。
特技: バイオリン・ダンス

たかこさん

今回のスタッフメンバーの1人。
お母さんのはずなのに子供のような
好奇心。人一倍探求心の強い
女の子でした。

アンブロスさん

BDP ダッカヘッドオフィスのスタッフ。
今回の旅で一番たくさん語らいの時間
を持てた。幅広い知識をお持ちで
たくさんのお話をしてくれた。一見、沈着冷静
だが、実は結構イタズラ好きの悪い子。

洋子

誰にでも愛される可愛い女の子。
以上。もちろん、本人談。
バンガラは2回目でした。

オシムさん

BDPの名ドライバー。名ダンサー。
おふざけが大好きだけど、子供と遊ぶ
時のオシムさんの目はとっても優しいです。
毎日キラキラしてました。俊幸さんとは
大親友です。

糸吉太

スタッフメンバー。明学大生。
正義感の強い頼れる存在。この
旅に糸吉さんがいなかったらチームは
味気なかったはず。よくピーターさんと
ダニエルさんに踊らされていた。
ベンガル・ネーム: バギナル

ダニエルさん

カティラスタッフ。カティラでは最年長。
洋子のバンガラदेशのお父さん。
彼もはしゃぐのが大好き。エンジン・ボート
の上では人格が変わってしまうみたい。

シャゴールさん

カティラスタッフのトップ。カティラの
プリンス。シャイな彼が時々見せる
まぶしい笑顔は最高。1日1回は
見ないと、ねエ。奥さまのジュティットラ
さんと息子のシャローム君、美しい。

ファルクさん

BDP ダッカヘッドオフィススタッフ。
唯一のムスリムです。シャイながらも
私達スタッフメンバー全員に、
ゆっくりと話しかけてくれました。
愛国心の強い頼れるスタッフです。

GOLD LEAF

俊幸さんのお友達。以上。

舟白先生

ACEF事務局長。スタディーツアーの
チームリーダー。毎回毎回“ムツゴロウに
似ている。”と書かれているようだが、私達
はそんなバツな事はしません。ACEFの
活動を熱心に進めてきた熱い牧師先生。

裕美

“腹黒い”という風のウワサを聞いたことも
あるが、人の痛みを想像できる心優しい
女の子。意外に彼女が狙うと必ずウケます。

ビーフルさん

カティラスタッフ。キャップの似合う
優しいスタッフ。日が沈み、真、暗な頃、
平然と自転車をこいで帰っていった。
ベンガル人、やるな!!

和子さん

スタッフメンバー内、“お母さん”。
裕美も洋子も和子さんの女性として
の魅力にひかれました。素敵なお母様。

『はらぺこ あおむし』

私達が行く先々で被露した劇。
結さんの青虫姿、俊幸先生の蝶は、
非常に美しかった、はず、です。

ハモントさん

BDPダンカヘッドオフィススタッフ。
夜毎、その美声を聞かせて下さった。
アルバートさんに からかわれて、ちょっと
かわいそうでした。

アルバートさん

BDPトップ。多忙のために
あまり共に時間を過ごせなかった
のが非常に残念。いろいろなトピックを
選んできては永遠に問題提起をして
下さいました。

ジョセフさん

カティラスタッフ。恋のお話大好き。
あの事件以後も、こりもせずに、
「ベンガリマリッジをせろう!」と。
好きねェ、ジョセフさん。

しずか
静麗

スタッフ最年少参加者。カワイイ
東女1年生。ツアー中は体調を
こわしてしまいかわいそうに…。
このスタッフを通して、また一段と
素敵なお女の子になってネ。洋子ヨリ

バーナードさん

カティラスタッフ。毎日ランニングを
欠かさないというスポーツマン。水泳
も大好きだとか。笑うと白い歯が
こぼれて素敵でした。

リパさん

カティラの美しい少女。
いろいろあるぜ、結さん!!

「ちょっとトイレ」

どういう意味だったのかな?

「あい〜ん!!」

オシムのお気に入り。

ネし子

スタッフメンバーの“お姉ちゃん”。
でも時々、洋子の妹のような気も…。
メンバー内の問題も大人の目で解決に。
社会人になっても頑張ってるね。

ビノイさん

カティラスタッフ。身の回りのお世話を
してくれた。女性ファン、タカだったぜ。

スティーヴンさん

BDP ダッカヘッドオフィスに新しく加わった
心強いスタッフ。はじめての日本人との交流に
フレンドシップであたたかく迎えてくれました。

義子さん

ACEF事務局長。サブリーダーとして、
お姉さんとして、お母さんとして、私達を
ささえてくれました。ベンガル語はペラペラ。

ジョンチョイさん

BDPヘッドオフィススタッフ。一見すると
怖い兄さんですが、ダンス好きのおもしろい
スタッフ。“村長さん”ではありません。

俊幸さん

スタッフの主演。憎めない最高の
キャラです。スタッフの人気を一人占め
したことを洋子は許しません。
新しい今後の生活でも頑張ってるね。

プーバイルスタッフ

短い間だったが私達を
歓迎してくれた心優しいスタッフ達。
皆さん陽気です。

「ココナツで1時間。」

それは無理でしょう…。

「うーん、テイスティー。」

外国で食べる日本食は
おいしいですね。

♪ ポレナーチョコッポルック ♪

スティーヴンさんいわく、
『タイタニック』よりスゴイらしい。

リキシャ、川へ落ちる。

オシムさんは車だけ運転してて
下さいね。俊幸さんケガします。

にんじん

洗ってから食べましょう。

おまじないの葉っぱ

妹尾結太によく交かします。

整腸剤

洋子 → しずか

苦いぞ!!

ネし子のじんたん

音楽

は
コミュニケーション
ツール
です。

私達が披露した日本の唄

♪ 幸せなら手をたたこう
(ベンガル語版)

♪ 大きな栗の木の下で
(ベンガル語版)

♪ おもちゃのチャチャチャ

♪ エーデルワイス

♪ 花

♪ 故郷

♪ 紅葉

♪ ドレミの歌





Bangladesh に寺子屋を贈ろう

祈りと労働をもって

ACEF の会員になりましょう

団体会費：年額一口 ￥50,000

個人会費：年額一口 ￥ 5,000

学生会費：年額一口 ￥ 2,000

ACEF に献金しましょう

クリスマス献金（金額は自由です）

一時寄付金（年間いつでも結構です）

アルミ缶回収と献金にご協力ください（年間いつでも結構です）

使用済みテレフォンカード、各種プリペイドカードの回収にご協力ください

（年間いつでも結構です）

郵便振替 00100-0-185540

アジアキリスト教教育基金

〒169-0051

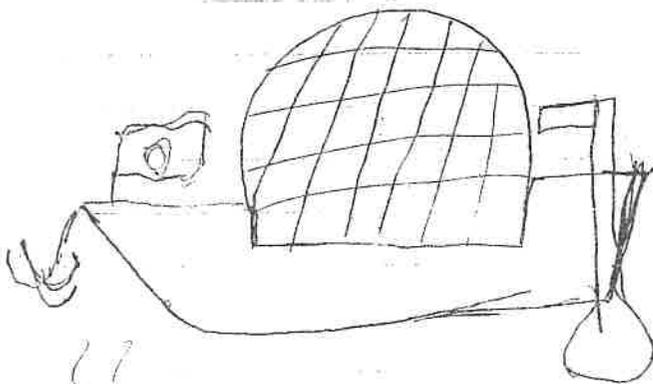
東京都新宿区西早稲田2-3-18-26

TEL.&FAX 03-3208-1925



エイセフ

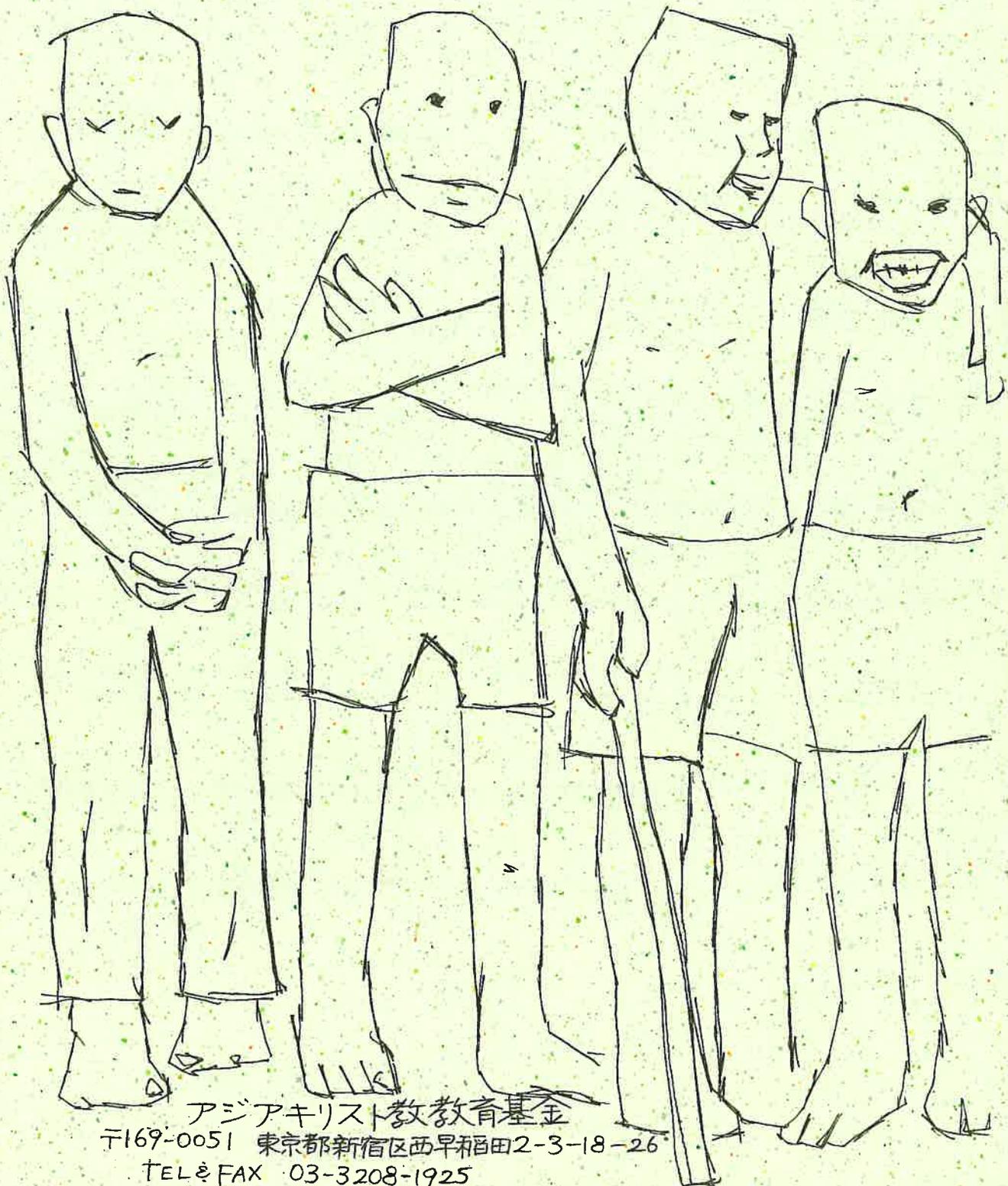
The Asia Christian Education Fund



6017407

第20回ACEFスタディーツアー参加者(2001年冬)

	氏名	郵便番号	住所	電話	教会	備考
1	<small>いがらしひろみ</small> 五十嵐裕美	361-0025	埼玉県行田市埼玉 3599-3	048-559-4092		東京女子大 言語文化2年
2	<small>おかあやこ</small> 岡 礼子	154-0017	東京都世田谷区世田谷 1-39-8	03-3427-0769	代田教会	東京女子大 地域文化4年
3	<small>かとうしずか</small> 加藤 静麗	180-0002	武蔵野市吉祥寺東町 4-10-12、C-102	090-7956-7905		東京女子大 コミュニケーション1年
4	<small>さいとうとしゆき</small> 斎藤 俊幸	341-0044	埼玉県三郷市戸ヶ崎 2265-18	0489-55-6573		
5	<small>せのおゆいた</small> 妹尾 結太	201-0001	東京都狛江市西野川 4-6-1-411	03-3489-0613	代田教会	明治学院大 社会福祉3年
6	<small>たかいしたかこ</small> 高石 孝子	618-0024	大阪府三島郡島本町 若山台2-2-23-503	075-962-3109	高槻教会	法政大 地理3年
7	<small>たかさきかずこ</small> 高崎 和子	203-0052	東久留米市幸町1-2-17	0424-75-1940	むさしの所沢 教会	
8	<small>ほんまようこ</small> 本間 洋子	154-0014	東京都世田谷区新町 1-7-11-402	03-3425-8586	松木町カトリック 教会	東京女子大 英文1年
9	<small>ふなとよしたか</small> 船戸 良隆	359-1132	所沢市松が丘1-20-2	0429-25-4685	教団教師	ACEF事務局長
10	<small>いのうえのりこ</small> 井上 儀子	331-0042	大宮市奈良町97-46	048-668-2942	浦和東教会	ACEF事務局



アジアキリスト教教育基金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-26
TEL&FAX 03-3208-1925